

香川県MICE誘致推進方策（概要版）

1 MICE 推進の方向性

（1）方向性



（2）本県の推進方策の構成

方向性に対応する本県の MICE 推進方策について、次のとおり分類する。

推進の方向性	推進方策
1 MICE 環境のレベルアップ	① 参加者の受入環境の整備 ② 主催者支援、参加者への対応の充実
2 MICE 誘致の強化	① 誘致推進組織 ② マーケティング ③ 人材育成、機運醸成 ④ 財政的支援

推進方策を実現するためには、「誘致推進組織」を中心に、関係機関が連携して取り組むことが重要である。

2 本県の MICE 推進の課題と方策

（1）MICE 環境のレベルアップ

①参加者の受入環境の整備

■課題

宿泊施設や展示会場、スポーツ大会の収容力不足による機会損失の歯止めに向けた動き

- ・宿泊施設や展示会場、スポーツ大会の収容力不足による機会損失が発生しているため、その歯止めが必要である。
- ・大規模なコンベンションの開催にあたっては、宿泊施設が高松市内では不足しているため、広域的な宿泊へと分散せざるを得ない。そのためには、2次交通の確保が必要となる。

■方策

MICE 施設の必要機能・規模の方向性や目標等の検討

- ・短期的には、専門家により既存施設の機能や規模等の分析を行い、可能な限り既存施設を有効活用する。
- ・中長期的には、誘致ターゲットを定め、需要予測や投資タイミングを考慮しながら、広域的な宿泊に対応するための2次交通の整備や宿泊施設を誘致することが考えられるほか、MICE 施設については再整備や新設等を検討する必要がある。
- ・そのためには、MICE の受入見込みや必要な施設機能について、県や高松市から具体的な方針や目標設定が必要である。

②主催者支援、参加者への対応の充実

■課題

ワンストップサービスによる主催者支援

- ・既存の複数施設を一体的に利用ができるように、ワンストップサービスで主催者対応を行う必要がある。

アフターコンベンション等の受入体制の強化

- ・エクスカーションにおける体験プログラムの受入規模の強化や歓迎パーティの受入先の開拓を行う必要がある。

■方策

主管窓口の設定や大規模 MICE でのルール共通化や連携

- ・「主管窓口」を設定し、予約対応と利用に関わる調整をワンストップで対応し一体の施設として調整や提案をすることで、主催者の事務局業務の負担軽減を図る。

アフターコンベンションの現況を把握した上での一層の活用と新たな開拓

- ・主催者等に強く印象づけるために、地域の特色を生かしたプログラムの開発を図る。
- ・利用しやすいユニークメニューを増やし、ストーリー性のある体験プログラムを充実させ、それらにアクセスするためのインフラを整備を検討し、主催者と利用者の満足度を高める必要がある。

(2) MICE 誘致の強化

①誘致推進組織

■課題

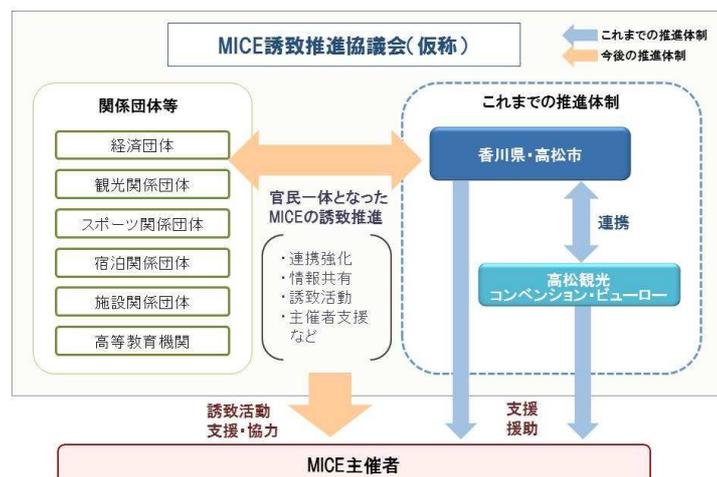
「オールかがわ」の体制による誘致・受入組織の必要性

- ・MICE 関係機関が一丸となって誘致推進に迅速に取り組める体制整備の必要がある。

■方策

官民一体となった MICE の誘致推進組織の設置

- ・県が事務局となって、県や市町、関係機関の緊密な連携をとり、誘致推進組織を設置し、望ましい取組み体制を検討して、役割分担の明確化を図る。
- ・行政やビューロー、施設等が保有する開催情報や主催者等の情報、会場及び客室の予約状況等を共有し、目標達成に向けて進捗管理を行いながら、着実な誘致活動を図る。



②マーケティング

■課題

首都圏における誘致活動強化

- ・コンベンションを開催する可能性のある主催者は首都圏に集中しているため、首都圏の主催者へのアクセスが重要である。

キーパーソンの開拓・支援強化

- ・学術系コンベンションの誘致においては、内外に発言力や人脈を有するキーパーソンへのアプローチ、地元大学等との定期的な情報交換や誘致訪問が必要である。

誘致情報集約によるセールス力強化

- ・開催地として選ばれるためには、他都市に先んじた誘致活動を展開し、主催者に関するダイレクトな情報を収集し、複数年に渡り継続的に情報を蓄積し一元化していくことが必要である。

■方策

首都圏への出張機会の増加やセールスツールの拡充

- ・首都圏へ出張機会の増加や首都圏に誘致担当者を配置することによる情報収集や支援の迅速化が望まれるが、費用対効果を考慮し、誘致対象を絞り込んで活動することが必要である。
- ・MICE に特化した PR 映像など誘致セールスツールの制作のほか、首都圏の旅行業者等に誘致を委託するなどの効果的な制度を研究する。

大学等に対する誘致活動の強化、開催見込み案件の増加と確度向上

- ・県内大学の教授等のキーパーソンに対してタイムリーな情報提供や支援を行うことにより連携を強化し、大学とのネットワークの構築を図る。
- ・開催可能性のある主催者に対して、迅速な支援を行うことにより他都市からの優位性を確保する。

アンケートやヒアリングの実施による主催者ニーズの収集

- ・本県の満足度や期待、強みなどとともに、現状の不足点や不満、課題を合わせて把握し、主催者ニーズの精度を高める。
- ・ヒアリングやアンケートの実施により、本県でMICEを開催したことがない主催者の声（開催しない理由など）を収集することで、潜在的なニーズを把握する。

データベースによる情報管理

- ・データベースを活用し、MICE開催情報や主催者情報の継続的な蓄積と一元管理を行い、必要に応じて共有することで誘致対象の絞り込みや機会損失防止に役立てる。

主催者や参加者の消費情報を基にした経済波及効果の定期的測定

- ・主催者や参加者の消費情報を基にした経済波及効果の定期的測定を行い、MICE各分野における経済波及効果の相違等の把握や関係者への情報提供を行う。

③人材育成、機運醸成

■課題

MICE 関係者の能力向上、人材育成

- ・誘致活動に伴う情報収集やネットワークの形成、主催者へ支援を通じて、MICE 開催を成功させ、本県での開催件数を増やすためには、担当者の能力を向上させる必要がある。

■方策

業界団体等による研修や情報交換、学習機会への参加、組織ノウハウへの集約

- ・各団体が定期的実施する職種別、階層別の研修や情報交換に参加することで、実践的な知識や提案力を習得することに努める。
- ・研修等で得られた成果を組織内で共有し、ノウハウを組織的に蓄積、管理することが重要である。

④財政的支援

■課題

開催補助金の有効活用

- ・開催補助金の支援対象が限定されており、他県の開催支援メニューと大きな差はないため、本県の独自性のある支援メニューの開発が望まれる。

■方策

開催支援補助金の対象見直し等により、受入れ先の誘致力強化・開催地決定を促進

- ・主催者にとって使い勝手がよく、誘致確度を高める支援メニューの見直しを行い、本県の独自性のある開催支援メニューの開発を検討する必要がある。